地歴公民(地理)

名古屋大学　文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期）　1 / 3

＜全体分析＞

試験時間	90 分

解答形式
論述・記述・選択・描図
分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点
大問は３題で、出題分野は河川や自然環境、漁業および海運、日本の輸入についての設問であり、昨年の自然環境、人口と都市、地誌とは異なる。図表の読み取り問題と論述問題が中心であり、昨年に比べ論述量が増えたため解答時間に余裕がなくなった。
その他トピックス
昨年と比べ問題分量の変化はなかったが、論述量が増えた。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	記述 論述 描図	河川や自然環境	世界と日本の河床断面図をもとに、河川名、日本の河川と世界の河川との比較説明、天竜川が流れる山間部、下流部、河口部の３つの地形図をもとに、図中の地形名とその形成過程の説明と断面図の描図および土地利用の読図、河川流域の開発の観点を含めた離岸堤の設置の背景の説明が求められた。	標準

© 河合塾　2023 年

地歴公民(地理)

名古屋大学　文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期）　2 / 3

Ⅱ	選択 記述 論述 描図	漁業および海運	問１では、5 か国の養殖水産物生産量（海面・内水面・汽水面）を示した表をもとに、海水面・内水面・汽水面の判定とその理由の説明、同じ 5 か国の漁獲量の 1960～2020 年までの変化のグラフをもとに国名判定、指定語句（海水温・海流・南東貿易風・湧昇流）を用いたエルニーニョ現象についての説明、ペルーの漁獲量のほとんど占める魚種名と、どのように加工され、何に利用されるかの説明が求められた。問２では、東アジアとヨーロッパ間の海上輸送について、スエズ運河、喜望峰、ベーリング海それぞれを通る航路とパナマ運河の正距方位図法への描図、スエズ運河とパナマ運河の開通年・運河の方式・全長・運営国を示す表中の空欄判定が出題された。また、スエズ運河と喜望峰を通る航路よりも短いベーリング海を通る航路が近年になって利用可能となった理由を気候変動と結びつけての説明と、スエズ運河を通る航路中の安全を脅かす問題が具体的に発生する海域とその問題についての説明が求められた。運河に関する設問は開通年や全長などが問われた設問と、正距方位図法に喜望峰を通る航路を描く設問は難問である。	標準
Ⅲ	記述 論述	日本の輸入相手	日本の輸入相手と輸入総額に占める各国・地域の輸入金額の割合を示した表をもとに、表中の a の国名判定と同国との 1980 年代の貿易摩擦を引き起こした工業製品名を答え、その貿易摩擦を背景として 1980 年代半ば以降に日本企業の生産拠点の配置がいかに変化したかについての説明が求められた。表中の b の国名判定と同国からの輸入品の割合を示した図中の 2 つの品目名およびその産出地の地理的分布の特徴の説明と、b 国が近年アジア地域との関係を強めているその背景について指定語句（移民・旧宗主国・距離・EC）を用いて説明が求められた。表中の c の国名判定と同国が日本最大の貿易相手国となった背景について指定語句（工場・賃金・日本企業・輸出）を用いて説明が求められた。また、d の国名判定と中国、日本および d 国の新造船建造量の変化の図をもとに、d の建造量の 1980 年代から 1990 年代にかけて推移の背景について指定語句（経済協力・工業化政策・重工業・輸出指向）を用いて説明が求められた。	標準

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2023 年

地歴公民(地理)

名古屋大学　文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期）　3 / 3

＜学習対策＞

自然、社会、産業などの重要テーマについて、教科書レベルの知識をもとに分布図や統計表を読み取らせて論述させる問題が中心である。そのため、地理用語や地名とその地図上の位置などの地理の基本的な知識だけでなく、自然は成因から、社会・産業は背景から説明できるような地理的見方・考え方を身につける必要がある。教科書をよく読みこなし、参考書などで補足しながら、地理用語や地理的事象を100～200 字程度の文章で説明する練習を繰り返し行うことが効果的である。描図問題は、グラフの作成や地図への記入などのほか、白地図や地形図の作成なども出題され多彩であるので、地図帳をよく見ておくとともに過去問の研究もしておくとよい。地形図の読図は、難易度の高い問題が多いため、過去問を見て傾向を把握し、対策を行っておきたい。時事問題も出題されたことがあるので、機会があれば新聞やテレビのニュース特集などを見て、世界で起こっている出来事や問題などに興味・関心を持っておこう。

© 河合塾　2023 年